

派遣国： タイ、チョンブリー、バンブング

ワッター美枝子

日本語パートナーズ・始まりからの2週間

私は今、外国人の間に日本のファンを増やす、そして、埼玉県を紹介する、という思いを胸に、5月下旬からタイ、チョンブリー県のプリンセス・チュラポーン・カレッジの中高生にタイ人の日本語教師（カウンターパートの略でCPと呼ぶ）とティームティーチングの形で、日本語と日本文化を教え始めたところである。ちなみに、最初の紹介時にサイタマを知っているか、という質問では100名あまりの日本語学習者の内、知っている生徒は皆無で、カワゴエという地名をどこかで聞いたことがある、という生徒が1名いた。

この学校は科学者の卵を育てる、という目的の下、全国でも学力において高いレベルを誇る全寮制の学校で多くの学生が英語を流ちょうに話す。が、日本語教育に関しては、第2外国語の選択科目ということでほとんどが初心者で、最初の1週間は日本語であいさつしても恥ずかしそうにタイ式に手を合わせる程度であった。私はとにかく明るく元気に、校内で会う全員にあいさつを続け、2週目の今は、日本語であいさつを返してくれる学生が少しずつ確実に増えているのを感じている。

学生の教師に対する尊敬の表現は、日本では想像もできないくらいだ。例えば、通路で会えば両手を合わせて挨拶をするし、教師の机に呼ぶと、その脇に正座をする。でも、彼らはまだ10代の子供。私のCPの、生徒の頭をつかんでぐりぐりしたり、おもちゃのふにゃふにゃバットで体を叩いたり、の授業中のスキンシップに、生徒も冗談で応酬するとクラスは爆笑の渦だ。とにかく明るくよく笑う！

初めて授業時間割を見たときはショックだった。それを見る限りでは、クラスは1コマ50分で、朝8時半から始まると午後4時20分までの9時限まで連続しており、休み時間の表記がない。真剣に、トイレ休憩、水分補給は、と心配した。が、そこはタイ人の余裕だ。ただ表記がないだけで、教室から教室へのクラス移動の時にトイレに行ったり、友達とおしゃべりしたり、のんびりしている。（ちなみに校舎内でふざけあったり、走ったりする生徒は今の時点で皆無だ。）日本語クラスの場合、2コマ目からは、全員が集まるのを待つ一方、各終了時間はしっかり守られるので、以降授業時間が短縮されていってしまう。計画した学習内容も一部割愛することとなる。自分が赴任してからほんの2週間。これからどんなものが見えてくるのか楽しみだ。

私は毎日片道10分間ほどのバス通勤である。バスは20～30分に1本で、時刻表がなく、停留所もないので自分のアパート近くの好きな場所で待つ。その中型バスの前後の扉は常に全開で、特に雨の日はなかなか来ない上に入口のステップにまで人がすでに溢れている。

しかし、乗らなければまたいつ来るかわからないので、とにかく他人の靴の隙間に自分の靴で強引に陣取り、両手で近くのつかまり棒をしっかりと掴む。自分の体の半分はバスから外にはみ出し、髪がバサバサ乱れる。もうこちらに来てから、2回もそんなことがあった。30年前、自分がバンコクでバス通勤していたころと変わらない光景だ。後日、これを職員室での雑談として話したところ、いつの間にか上司の耳に入り、朝はその上司が少し回り道をして車で私を拾ってくださることになり、この数日間は楽をさせてもらっている。

*日本語授業風景。教室全体の一部で、
実際の生徒数は1クラス42名。



*赴任先学校の職員室から見た
朝礼台のある中庭



*いつも利用している緑色のバス。
日曜日に撮影したもので乗客は少ない。

